

CIVIC FORCE 事業概要

<p>事業目的</p>	<p>台風 19 号で被災した子どもたちが思いっきり体を動かし、心身ともに元気な姿を取り戻すとともに、スポーツを通じた地域コミュニティの復旧・復活を目指す。</p>
<p>事業全体の概要</p>	<p>●NPO 法人長野スポーツコミュニティクラブ東北と長沼ミニバスケットボールについて</p> <p>NPO法人長野スポーツコミュニティクラブ東北（通称スポコミ）は、長野市立東北中学校バスケットボール部と技術交流をしていた長沼ミニバススポーツ少年団の保護者やコーチたちによって、平成12年、前身となる「スポーツコミュニティクラブ東北育成協議会」を設立。「スポーツをいつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」「スポーツで地域をつなげる」をキーワードに「総合型地域スポーツクラブ」※を運営しているNPO法人。会員は415人。地域住民を中心に幼児から大人まで幅広く参加している。会員はスポーツ保険に加入することができ、各団体の練習・遠征・試合・イベント参加時でのケガも補修される。運営は会員からの会費でまかない、行政からの助成金などはない。</p> <p>※生涯スポーツの振興、地域住民の健康・体力の維持増進、世代間交流、少子・高齢化社会への対応などのために、文部科学省が掲げる「総合型地域スポーツクラブ」育成事業（平成12年～）。同年、スポコミは日本体育協会「総合型地域スポーツ育成事業」に応募し、3年間の指定を受け、東北中学校区（長沼、古里、柳原地区）から地域に根ざした、地域住民の手による新しいスポーツクラブの運営を目指して活動している。</p> <p><活動内容></p> <p>「スポコミランド」：地域住民が定期的にスポーツを楽しめるよう、約10種目のスポーツを東北中学校などの会場で楽しめるよう運営。各種目ごとに責任者が置かれ、運営が任され、独自の活動をしている。</p> <p>「小中高の連携事業」：東北中学校区3つの小学校（柳原小、古里小、長沼小）と東北中学、長野高校、高専が、バスケ、陸上、サッカーなどを通じてつながる合同練習の機会などを提供。少子化が進み、朝練や夕方以降の部活動に制限がかかる昨今の学校事情を受けて、学校や生徒・保護者の要望を受けて、部活動支援をしている。</p> <p>「キッズアドベンチャーワールド」：8歳までの子どもたちが異年齢で一緒に遊び、前頭葉を鍛える運動を実施。</p> <p>「スペシャル企画」：地域連携のスポーツ交流会や各種スポーツイベント・シンポジウムの運営を担っている。</p> <p>また、スポコミに加入している長沼ミニバスケットボールクラブ（以下長沼ミニバス）は平成4年に結成され今年で27年目の歴史を有するミニバスケットボール団体。現在所属する子どもの保護者の中には、長沼ミニバスに所属していたという人も少なくない。長野県大会には男子は14年連続、女子は4年ぶりに出場を果たしている。小学校1年生～6年生までが所属し、現在男女総数52名が在籍。全員スポコミ東北に入会しており、中学生との合同練習やスポコミ主催のスポーツイベントにも参加し、連携をとりながら活動を行っている。</p>

●台風 19 号の被害について：

スポコミ事務局は、長野市立東北中学校の敷地内にあるが、今回の台風 19 号で浸水。メンバーらが 1 カ月近くかけて通いながら片付け・清掃を終え、現在は利用できる状態になっているが、多くの備品や事務用品が使用できなくなってしまった。また、地域のスポーツ活動の拠点であった長沼小学校体育館と長野市営長沼体育館は今回の災害で浸水し、一時は 2 メートル近く泥水が入った。水位が下がった後、スポコミメンバーらが自衛隊や NPO などの力を借りながら清掃を行い、11/2 のスポーツ大会や 12 月の住民集会などの会場として一時的に利用した。12 月末からは、学校側の意向で、長沼小学校体育館の床をはがして本格清掃に入ったため、活用できない状況となっている。

また、長沼ミニバスは、これまで両体育館で週 4 回練習をしていたが、県大会出動をかけた大会前に練習場所を失ってしまった。そこで、災害後は近隣の体育館にあきがないため、遠方の体育館まで練習に行っているが、体育館使用料や暖房費・燃料費・交通費等の捻出が必要で、被災した親子の負担が増えている。長沼小学校の体育館が使える目処はたっておらず、少なくとも半年以上先となり、長沼体育館のほうも再建設の目処はたっていない。

●取り組むべき課題と Civic Force 「NPO パートナー協働事業」 概要

スポコミおよび長沼ミニバスに所属する子どもたちの半数以上は長沼小学校に在籍し、発災から 3 カ月が経過した今も、まだ自宅に住むことができていない。学校への登校については、12 月までは臨時のスクールバスやタクシーなどで隣の柳原小学校に通学し、1 月からは長沼小学校校庭に建設された仮設校舎での授業開始となったが、通学手段は変わらずスクールバスでの登下校となっている。徒歩での通学がない分、歩くことがほとんどなくまた体育館が活用できないため、体育の授業を行うことができず体を動かす時間が激減している。長沼地区では、児童館なども浸水し、子どもたちが集まる場所の多くがまだ利用できない状況となっており、体育館は地域住民からも利用の要望が高い。

他方、メンバーの半数以上が被災したにもかかわらず、11/23 のミニバス県大会には避難所からも小学生が参加し、大変な状況のなかでもスポーツを続けたいという思いを保ち続ける子どもたちがいた。県大会前には避難所だけでなく、子どもを含む内外から支えたいという気持ちがより高まっており、その力は地域コミュニティの復旧・復興の原動力にもなりつつある。もともとつながりの深い地域の関係性は、スポーツを通じて形成されてきた面も大きく、このコミュニティを維持していくためにも今が正念場という認識が関係者の間でも広がっている。

そこで、Civic Force の協働事業では以下の事業を展開する。